



愛郷無限

2015年12月3日号 NO.533

写真提供:大田市

土屋館
どや
だて 通信

発行者:大曲・花火通り商店街
文責:辻

お問い合わせ:080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject : やりっぱなしの行政、頼りっぱなしの民間、全然感心なしの市民

地元新聞の記事に、秋田県議会の市民意見交換会が大仙市で開催されたという記事がありました。記事中、住民からの声として「中心市街地再開発・南街区が完成したのに賑わいが見られない」という意見。とかくこの種の再開発は補助金を獲得しやすくするため「賑わい創出・活性化」というお題目が付くよう設計されている上に、地元の成り立ちや事情を知らないコンサルが係わるから他地の焼きまわしか二番煎じ。地域の特色を無くしてしまう元凶でもあり、このような結果があちらこちらで見聞きされます。地方の場合、徹底的にプランニングされた集客装置やお客様を先付けて組み込んだ計画でなければ、公的な箱物に賑わい(=人混み)が日常的に生まれることはまずないでしょう。人集めのための集客イベントを365日続けることは常人には出来ません。そうであればこそ、計画段階から民間協働することこそが重要なのですが、県内の自治体ではその前提部分が全く見られぬ例ばかりですね。無責任に好き勝手に利己なことを主張する市民に足並みを乱されるのが嫌なのでしょう(笑)

イベントで単発的に人を集めることはほどほどに、そもそも常日頃から自然と住民や来街者が集まってくる便利で温かい場所づくりこそが根本なはず。住民、商業者側が、自分達の住む街を快適・豊かにして、矜持持ち、他者へも誇れるようにしたいと考え、計画段階からその知恵と想いを乗せて行政と協働する仕組みが大切ですよ。この会議で出された「活性化していない」という意見こそが官民共に他人任せ・無責任な地方の悪弊の象徴だと思いました(県議会側は何と回答したのでしょうか?)。自分で何か始めたり、参加することを考えましょうよ。小さくてもよいから月一回、自分のためじゃない誰かのために何かをする、そんな人が30人居れば毎日になりますから。そして継続していきましょう。自分の趣味や娯楽・家族のための時間をちょっとだけ削ってもバチは当たらないはずです。

インターネットで公開されているWEBマンガ「地方は活性化するか否か」(こぼやし たけし作・学研プラス刊)が大人気になっています。累計290万PVを超えて、書籍化されるやいなや増刷を繰り返しています。疲弊する地方都市「みのり市」を舞台に、「みのり高校地域活性研究部」が地域活性化を目指し、日々奮闘するストーリー4コマですが、この中で作者は地方自治の実態を【やりっぱなしの行政、頼りっぱなしの民間、全然感心なしの市民】と「高校生」の言葉として見事に喝破しています。

【やりっぱなしの行政、頼りっぱなしの民間、全然感心なしの市民】

分かりやすいと例えだな〜、地方の現状は全くその通りで耳が痛いです(笑)
因みにこの人気WEBマンガ「地方は活性化するか否か」は次のアドレスで全編読むことが出来ます。 <http://minorikou.blog.jp>